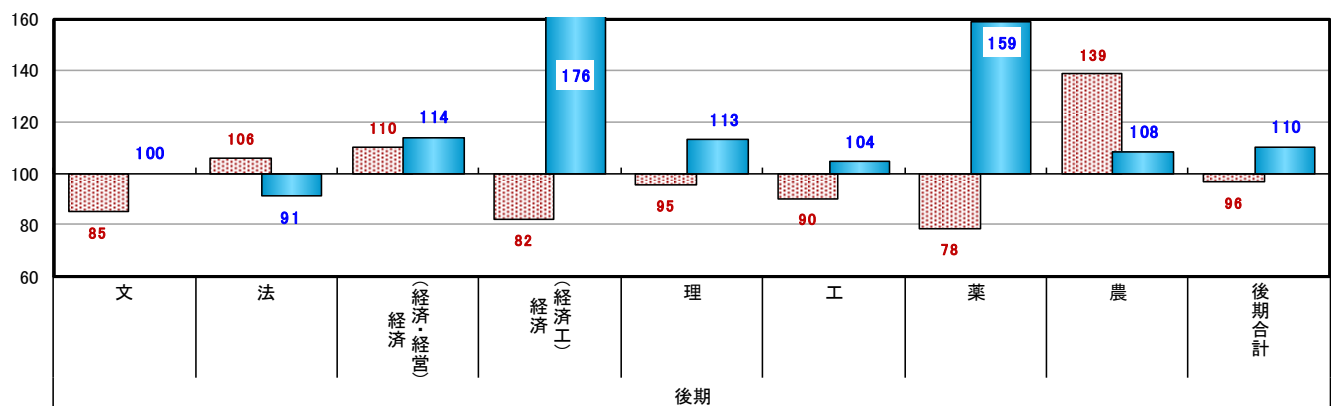
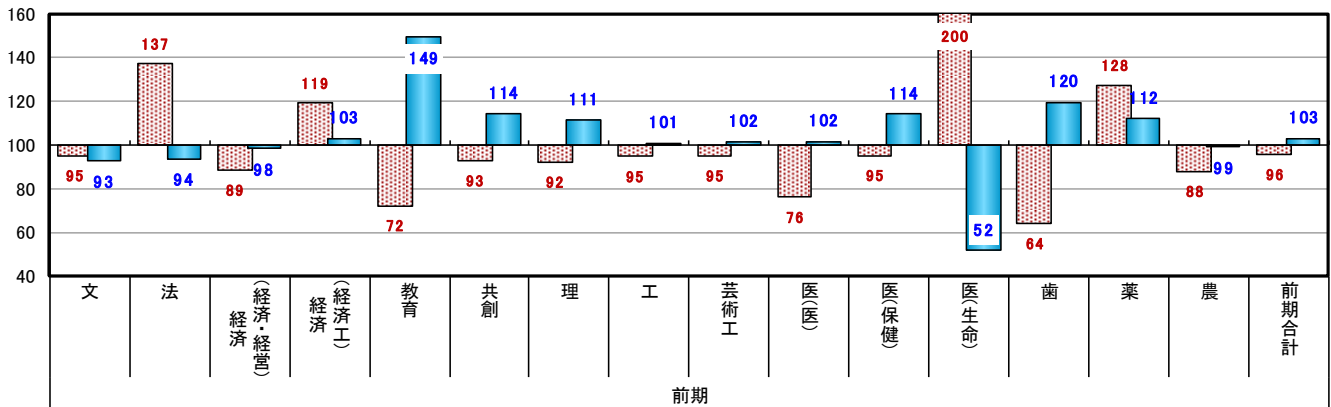


2021 年度入試状況分析【国公立大】

九州大：前期はやや増加、後期は3年連続減少の反動で増加 前期：+161人 後期：+227人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2020年度/2019年度 ■ 2021年度/2020年度



入試変更点

学科改組：工…エネルギー科学、建築、電気情報工、物質科学工、地球環境工、機械航空工
 →I 群：電気情報工、II 群：材料工、応用化学、化学工、融合基礎工(物質材料コース)
 III 群：融合基礎工(機械電気コース)、機械工、航空宇宙工、量子物理工
 IV 群：船舶海洋工、地球資源システム工、土木工、V 群：建築
 VI 群：入学時に I～V の学科群を特定しない一括募集 ※学科群別募集

選抜方法：経済(経済工)〈後〉…提出書類に志望理由書追加

募集人員：経済(経済・経営)…〈前〉110人→93人、〈後〉31人→26人
 芸術工(インダストリアルデザイン)…〈前〉(コース別)：25人→20人
 芸術工(未来構想デザイン)…〈前〉(コース別)：15人→10人
 医(保健/看護)…〈前〉59人→58人
 農…〈前〉172人→170人、〈後〉24人→22人

共通テスト：共創…得点換算(複数基準)→みなし満点
 対象試験：英検、GTEC、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TOEFL iBT
 →ケンブリッジ英検、英検、GTEC、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT

個別試験：文(人文)〈後〉…論<300>→論 I<250>、論 II
 ※論 II は志望理由等についての論述を課し、学部の趣旨やアドミッションポリシー等に照らし合わせて適格・不適格を判断する(不適格の場合は共通テストと論 I の成績にかかわらず不合格となることもある)

法〈後〉…講義に関する理解度確認試験 ※教員による講義(45分)のち理解度確認試験(90分)を行う
 理(化学)〈後〉…理<400点>→理<600点> ※配点変更

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は161人(103)のやや増加で、前年度やや減少の反動が見られた。文理別では、文系は21人(102)の微増、理系は140人(104)のやや増加。後期は227人(110)の増加で、3年連続減少の反動が見られた。文理別では、文系は16人(102)の微増、理系は211人(115)の大幅増加。

2021 年度入試状況分析【国公立大】

<前期日程>

- 文(93)は、やや減少で、2年連続減少。
- 法(94)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。
- 経済(101)は、前年度並。学科別では、(経済・経営)(98)は微減で2年連続減少。一方で、(経済工)(103)はやや増加で2年連続増加と対照的。
- 教育(149)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加し、志願者数は2011年度以来の130人を上回った。志願倍率も2.5倍→3.7倍にアップ。
- 共創(114)は、前年度やや減少の反動で増加。新設4年目で志願者数が最も多かった。
- 理(111)は、前年度5年ぶりに減少したが、再び増加に転じた。学科別では、(生物)(135)、(化学)(133)は大幅増加、(地球惑星科学)(109)(数学)(103)はやや増加、一方で(物理)(87)は減少。
- 工(101)は、学科改組を実施し、募集も学科群別募集となった。志願者数は前年度並で、2年連続で1,400人を下回った。学群別の志願倍率は、(I群)2.8倍、(VI群)2.5倍、(III群)2.1倍、(II群)2.0倍、(V群)2.0倍、(IV群)1.5倍だった。
- 芸術工(102)は、微増。新設2年目の(学科一括)(184)は周知が進み大幅増加、志願倍率も2.9倍→5.4倍に大幅アップ。コース別募集では、(芸術工/環境設計)(100)が前年度並だが、他の4コースはいずれも減少。特に、(芸術工/未来構想デザイン)(67)、(芸術工/メディアデザイン)(85)が大幅減少。
- 医(医)(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく微増に留まった。なお、第1段階選抜は、志願倍率が2.51倍と第1段階選抜基準の約2.5倍とほぼ同じだったが、実施されなかった。
- 医(保健)(114)は、2年度減少の反動で増加。専攻別では、3専攻ともに増加で、特に(保健/放射線技術科学)(119)、(保健/看護)(117)は大幅増加。
- 医(生命科学)(52)は、前年度倍増の反動で半減近い大幅減少。募集人員が少ないので前年度対比指数は極端になりやすいが、2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 歯(120)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 薬(112)は、2年連続増加。学科別では、(創薬科学)(115)は大幅増加、(臨床薬)(110)は増加。
- 農(99)は、系統への低い人気もあり、微減だが2年連続減少。

<後期日程>

- 文(100)は、前年度並。2015年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 法(91)は、前年度やや増加の反動で減少。2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 経済(131)は、大幅増加で志願倍率は2017年度以来で10倍を上回った。学科別では、(経済・経営)(114)で2年連続増加、(経済工)(176)の大幅増加で、2012年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 理(113)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、(物理)(83)が大幅減少、(地球惑星科学)(90)が減少。
- 工(104)は、やや増加で6年ぶりに増加。改組された学科群別の志願倍率は、(VI群)が10.1倍で最も高く、(IV群)が6.2倍で最も低かった。
- 薬(159)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(創薬科学)(203)が倍増以上の激増、(臨床薬)(126)は大幅増加。
- 農(108)は、2年連続増加。志願倍率も5.8倍→8.1倍→9.5倍とアップが継続した。